

## 基本方針4

## 魅力ある田園環境の創出

〔農業と環境の共生に関する方針〕

本市は、豊かな自然環境や広大な農地を有する田園と高次都市機能の集積が進む都市とが調和・共存した、他市町村にはない特徴を有する「田園型政令市」です。この新潟市らしさを今後も維持するためには、農業・農村のもつ機能を保全するとともに、積極的に活かしていく必要があります。

環境への負荷をできるだけ与えない営農を続けるとともに、農業の多面的機能のさらなる発揮により田園の魅力を高め、これからも都市と農村が活発に交流する、魅力ある田園環境の創出を目指します。

- サブテーマ1：環境にやさしい農業の推進
- サブテーマ2：多面的機能のさらなる発揮

## (1) サブテーマ1：環境にやさしい農業の推進

本市では、環境保全型農業の栽培面積は年々増加傾向にあるなど、環境に優しい農業への意識が高まっています。また、全国的にも環境への負荷を与えないような営農や資源循環の取り組みが浸透してきており、本市においてもさらに推進する必要があります。

このため、本市の基幹産業である農業においては、環境への負荷を与えないような営農、資源の循環利用により、自然環境にやさしい地域づくりを目指します。

## 【施策】

施策	取り組み
施策18 環境保全型農業の推進	①環境への負荷の少ない農業の推進
施策19 環境に配慮した整備の推進	①景観・自然に配慮した整備
施策20 資源循環型社会の形成	①資源の循環利用・バイオマスの利活用推進

## 【施策の内容】

## 施策18 環境保全型農業の推進

## ①環境への負荷の少ない農業の推進

有機資源を循環利用した土づくりを基本に、生産性を維持しながら、環境への負荷の少ない農業を推進します。

- 化学合成農薬・化学合成肥料の使用の5割低減の取り組みを推進します。また、堆肥の施用や有機農業等、環境への負荷低減や生物多様性保全に効果の高い取り組みを推進します。

## 施策19 環境に配慮した整備の推進

### ①景観・自然に配慮した整備

農道や水路などの基幹的農業施設の整備から末端の地域資源の保全管理に至るまで、環境との調和に配慮した整備を推進します。

- 新潟市農村環境計画（平成24（2012）年3月）<sup>※25</sup>の基本方針である「新潟らしい自然環境の保全と景観の創出」、「環境に優しい農業の持続的発展」、「社会が求める農村と都市の互恵づくり」を基本とし、エリアごとに定められた配慮事項に留意します。

#### ※25：新潟市農村環境計画（平成24（2012）年3月策定）

◆本計画は、農村と都市がつむぎ合い、白鳥と共生する「田園文化都市」を目指し、環境との調和に配慮した農業農村整備事業を進める指針となる計画です。今後の農業・農村づくりの基本原則となる目標や方針と各種対応策を示したものです。

## 施策20 資源循環型社会の形成

### ①資源の循環利用・バイオマス<sup>※26</sup>の利活用推進

稲わら、もみ殻、家畜排せつ物等、地域内資源の循環利用を推進し、バイオマスを利用する取り組みを進めます。

- 地域の畜産農家で作られる堆肥を使用し、水田へ堆肥を散布する資源循環型農業を推進します。
- もみ殻や間伐材等の田園資源を燃料として有効活用を図るなど、バイオマス利活用の取り組みを推進します。
- 農業水利施設等を利用し、再生可能エネルギー<sup>※27</sup>導入を推進します。

#### ※26：バイオマス

- ◆バイオマスとは、生物資源（bio）の量（mass）を表す概念で、一般的には「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」をバイオマスと呼びます。
- ◆バイオマスには、稲わら、麦わら、もみ殻等の農業系バイオマス、林地残材、果樹剪定枝、廃材等の木質系バイオマス、牛、豚、鶏等の畜産排せつ物の畜産系バイオマス、生活系・事業系ごみ等の食品系バイオマス、下水汚泥等の汚泥系バイオマス、トウモロコシやさとうきびなどの資源作物（エネルギーや製品の製造を目的に栽培される植物）があります。

#### ※27：再生可能エネルギー

- ◆再生可能エネルギーとは、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱や、その他の自然界にある熱、バイオマス等、自然の力や廃棄物を活用するため、枯渇する心配がなく繰り返し使うことができ、発電時や熱利用時に地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど排出しないエネルギーです。

## (2) サブテーマ2：多面的機能のさらなる発揮

本市の農業・農村は、食料等の農畜産物を供給するという基本的な役割に加え、農業生産活動による農地の保水効果や土壌流出防止効果、水源かん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの多面的機能を有しており、市民生活にも関わる重要な役割を果たしています。

今後、農業・農村が持つ多面的機能のさらなる発揮に向けた取り組みを推進します。

### 【施策】

施策	取り組み
施策21 防災機能の向上	①農地・排水施設の防災機能の向上
施策22 魅力ある田園集落づくりの推進	①魅力ある田園集落づくり
	②豊かな自然の保全と創出
	③文化の継承

### 【施策の内容】

#### 施策21 防災機能の向上

##### ①農地・排水施設の防災機能の向上

本市は低平地が多く、農業用排水機場の常時排水などによって都市部の生活は守られているものの、水害の被害を受けやすい地形にあるため、近年の自然災害に対応すべく、農地の持つ防災機能を活用し、災害に強いまちづくりを推進します。

- 排水機場や排水路等の整備を通じて、排水機能を高め、農地や市街地の浸水被害の軽減を図ります。
- 農家の協力による田んぼダム<sup>※28</sup>の取り組みを支援します。大雨の時に雨水を田んぼに一時貯留し時間をかけて排水することにより、洪水の防止・軽減を図ります。

#### ※28：田んぼダム

◆田んぼダムとは、田んぼがもともと持っている水を貯める機能を有効利用し、大雨が降ったときに田んぼに一時的に水を貯めることで洪水被害を軽減する取り組みです。ゼロメートル地帯が広がり常時機械排水に頼る本市では、集中豪雨の発生等により洪水被害が拡大する可能性があり、このような洪水被害から宅地や転作田などの農地を守るためには、河川の排水量の集中を避ける必要があります。田んぼダムの取り組みにより、広大な水田地域から雨水をゆっくり排水することにより、大きな洪水軽減の効果が期待できます。

◆新潟県村上市（旧神林村）で、平成14（2002）年度に全国に先駆けて取り組みが始まりました。

## 施策22 魅力ある田園集落づくりの推進

### ①魅力ある田園集落づくり

農村地域で快適な生活が営め、住み続けたい、住んでみたいと思えるような魅力ある田園集落を目指します。

- 集落道、排水路、農村公園等の生活環境施設の整備を推進します。
- 四季折々の草花やハザ木、屋敷林などの農村景観を保全する活動を支援します。
- 農村景観や農家の生活など、本市の農業・農村の魅力に関する情報を全国に発信します。

### ②豊かな自然の保全と創出

信濃川・阿賀野川等の河川、福島潟・鳥屋野潟・佐潟等の潟湖、巻・岩室の山地、新津丘陵の里山など、豊かな自然環境を保全するとともに、産学官民連携による取り組みにより自然環境の質の向上を図ります。

- 水質の改善や四季を通じて水鳥や水生生物が生息できる環境を創出するため、環境用水の導入を推進します。
- 農業水路におけるビオトープの整備や休耕田を利用した疑似湿原の形成等により、河川や潟湖、里山等の自然地のネットワーク化を図り、生態系の保全と創出を推進します。

### ③文化の継承

稲作文化を基盤に育まれてきた新潟市の農村の伝統文化を、集落内の世代間交流、農村・都市交流などの多様な交流活動を通じて次世代に継承する活動を推進します。

- 農村の伝統的な技術や文化・景観を次世代へ継承する活動を支援します。
- 農業・農村における体験活動、保全活動を行う市民団体等の取り組みを支援します。